

はじめに

本県は、製造品出荷額等が昭和52年以来40年連続して全国1位を誇るものづくり立県であり、高等学校における産業教育等を通して、これまで幅広い分野で産業・社会を担う人材を輩出してきた。現在、リニア中央新幹線、燃料電池自動車（FCV）、国産初のジェット旅客機MRJなど、日本の未来を創るプロジェクトには、産業界から大きな期待を寄せられている。その一方で、生産年齢人口の減少による労働力不足や製造拠点の海外移転といった問題も顕在化してきている。また、急速な技術革新により、AI（人工知能）が様々な判断を担ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりするIoT（Internet of Things）が広がるなど、Society5.0*とも呼ばれる新たな時代の到来が、産業構造や雇用環境を含めた私たちの社会や生活を大きく変えていくことが予測されている。

このような中、平成30年3月に告示された高等学校の新学習指導要領は、職業に関する各教科について、地域や社会の発展を担う職業人を育成する上で必要となる各教科内容等の改善の視点として、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化への対応等を掲げている。本県においても、こうした技術革新や産業構造の急速な変化への対応は重要な課題であり、本審議会は平成30年1月31日、愛知県教育委員会から「変化する時代に求められる資質・能力を育成する産業教育の在り方」について諮問を受け、本県産業教育の現状と課題を整理し、慎重に審議した結果をとりまとめた。

本答申は、第1章では、高等学校卒業者の進路状況や、高校生の職業・進路に対する意識の現状、高校生を取り巻く産業社会の変化など、高校生を取り巻く状況について調査した結果をとりまとめ、第2章では、高校生を取り巻く状況の変化を踏まえ、本県産業の発展を支える人材に必要な資質・能力を示した。次に、第3章では、将来を見据えた産業教育全体としての目標を掲げるとともに、産業教育の質を保証するための視点を示し、第4章では各論として、各学科における本県のこれからの産業界を支える人材に必要な資質・能力を育成する方策を記した。

以上のようにまとめ、本県のこれからの産業界を支える人材に必要な資質・能力を育成するために必要な産業教育の方策や展望等について審議した結果を答申する。

*Society 5.0：狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会を指し、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。